

「土砂災害防止について私にできること」

滋賀県 近江兄弟社中学校 1年 越後 由羽

「滋賀県は災害が少なくて良い所ですね。」
これはよく聞く言葉です。

実際、私は生まれてからずっと近江八幡市に住んでいますが、これまで大きな災害にあったことはありませんし、見たこともありません。しかし、この作文を書くにあたって「本当に滋賀県は災害の少ない安全なところ」なのかという疑問がわいてきました。

頭の中に滋賀県の地形を思い浮かべてみると、四方を山に囲まれており、中心には県の面積の六分の一に相当する「琵琶湖」があり、その琵琶湖に直接流入する一級河川と言われる大きな川が多数あります。そういったことを統合して考えてみると、水害・土砂災害という自然災害の起こる確率は決して低くないのではないかと思います。

そこで、実際に過去にあった土砂災害を調べてみようと思いました。日本全体でみると、ここ最近 10 年の平均で土石流・地滑り・崖崩れなど、毎年平均約 1200 件もの土砂災害が起こっているとのことでした。実はこんなにたくさんの災害が起こっていたことと、家屋にもじん大な被害が出ていたこと、そして何より尊い命が沢山うばわれてしまっていたことを知ってびっくりしました。

写真も掲載されており、土砂に家の屋根まで埋まったもの、道路のアスファルトが壊れて何層にも折り重なったもの、地すべりにより山の一部の木が崩れ茶色い山肌があらわになったもの、自衛隊の方が救出活動にたずさわっておられる様子のものが多数あり、大変衝撃を受けました。

そんな中、滋賀県ではどうだったのでしょうか。記憶に新しいところでは、平成 25 年の台風 18 号による災害が思い出されます。夜中を通してずっと強い風が吹いており、また同時に雨も激しく吹いており、家の中でずっとテレビを見ていても、ひっきりなしに注意報や警報、特別警報の情報がテロップに警告音とともに流されており、大変なことになっているのではないかと小学生ながら不安に感じていたことを思い出しました。

一夜明け、災害の状態が明らかになると高島市・栗東市が被災され、大変なことになっている様子がテレビや新聞で報道されていました。これを見て、身近なところで起こったことに衝撃を受けました。その時父がボランティアで、高島市に土石流の泥かきに行き、家の中に水を含んだ土砂と共に大きな石が何個も入り込み、家具も流されたり泥まみれになり、また匂いもひどく被災された方が普段通りの生活に戻れるのは大変だろうと話してくれました。今考えると、当時小学生だった私も何かできることがあったのではないかと後悔しています。

よく言われることですが、災害はいつ何時やってくるかわかりません。できる限りの防災とたとえ災害が起こったとしても減災は、まず個人の心構えと備えで少しはカバーできることもあると思います。

そこで、「災害」について家族で話合いました。その一つは、万が一家族がそれぞれ学校や仕事に行っている時に災害にあったら、とりあえず避難所に指定されている「小学校」に行くこと。また、誰もいない時に家から自分が先に避難することがあれば、ホワイトボードにブレーカーを落としました、ガス栓閉めましたと記入時間とともに書いて避難所へ行くことを約束しました。

また、いろいろ調べていくと滋賀県のホームページに、「防災情報マップ」というページを見つけました。自分の住んでいるところの水害や土砂災害、地震の危険度マップやリスクのシミュレーションができるというものでした。これで自分の地域や通学路を重ね合わせると必ずしも安全ではないことを確認できました。これにより、万が一に災害にあい、避難所へ行くことになったとしても、危険リスクを最小限におさえたルートで避難することができます。

もしもということを想定した被害だけを知ってしまうと大変恐ろしいのですが、やはり過去の災害を知ることと、これから起こり得る災害を知っておくことは、防災への第一歩でもあると思いました。滋賀県は大丈夫、自分のところは大丈夫と思っていたのは大きな間違いだと今回気づき、大変良い勉強になりました。